

白鼠には
お似合いだ



ええ……
彼女はよく
勤めています

あれほど
実直な者を私は
他に知りません

純粹ゆえに危うい
部分もありますが……
ご心配は無用です





鼠にはお似合いだ



ああもう……
なんて野蛮な
連中なんでしょう

聖から預かった
大事な船が
お釈迦ですよ！

……ここまで
よく持ってくれたわ

オ
オ

時間稼ぎは終わり……
焦らして悪かったわね

空飛ぶ船に
のこのこ付いてきて
ご苦労様です

フン





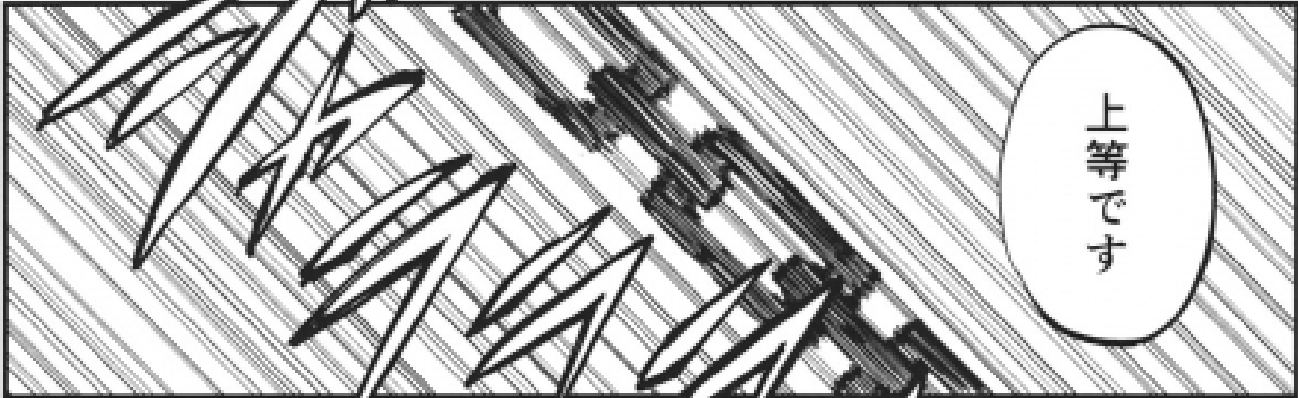
全員
まとめて

相手して
あげる



ねえ……これが
終わったら隠してるの
香ませてくださいよ

無事に
帰れたらね



上等です



人間共よ
感謝なさい

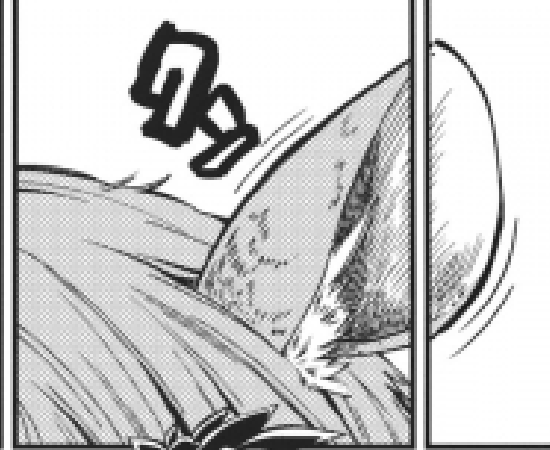
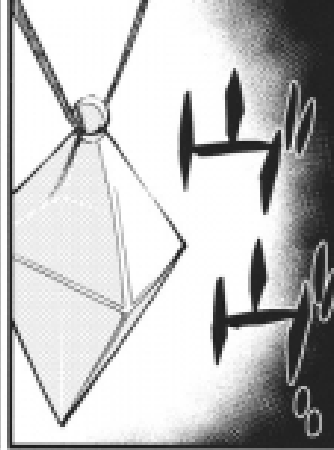
酒盛りの前に
教育してあげる

お前達が
忘れた妖怪の
恐ろしさを！



.....
聖白蓮

どうか
ご無事で



悪い報せです

.....



墜とされました



聖堂船が



皆は無事
なんですか？



雲居一輪と
雲山入道……

それに弱い
ムラサ船長も
生きている

……しかし
強力な結界で押さえ
込まれています——

そんな……

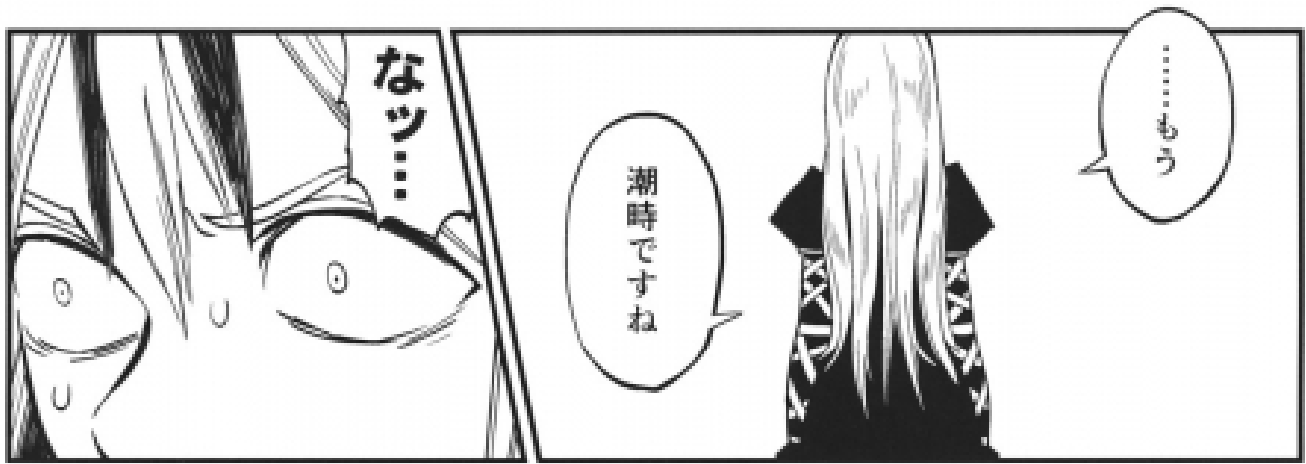


ご自分を責めないで……
船長達は自ら覚悟の
上で向かったのです



……すべて
私のせいです

あの子達をもっと
強く止めていれば
こんなことには……





やめて下さい

……



だから 私は彼らの元に 降りましょう……

そうすれば あなた達が追われる 事もないはずで



それでは何も 意味がないんです

……



まずいな

……



我々は あなたが……

聖白蓮が いないとは

ガッ



星

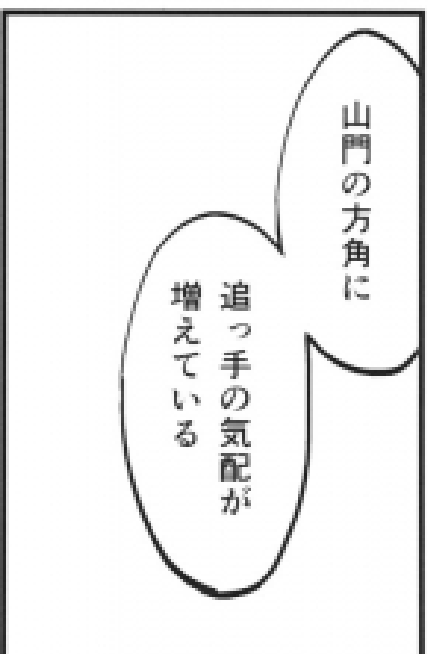
そんな……

そ



踏み込まれれば 本尊の御身も 危くなります

早々に ご決断を……



山門の方角に

追っ手の気配が 増えている

……百年
待っていて
ください

時間が経てば
世相も変わる――

いまは息をひそめ
堪えて待つのです

妖怪が不当に
虐げられることの
ない時代を

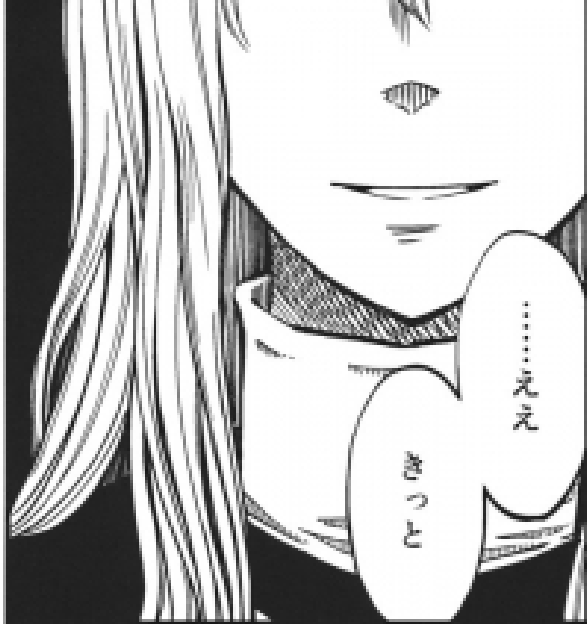
それまでは
あなたがこの
寺を護るの

でも
私は聖が……

寅丸様

もう

時間が



……ええ

きつと



百年……

百年待てば 必ずまた
会えるんですね?!



私は

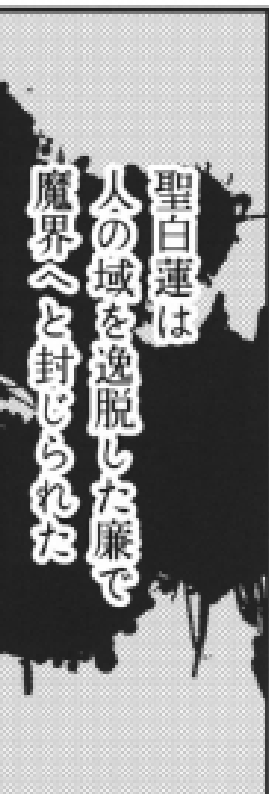
元よりそれが
仕事ですので



聖……

ナズーリン

星のことを
よろしく
頼みます



聖白蓮は
人の域を逸脱した廉で
魔界へと封じられた



うう……

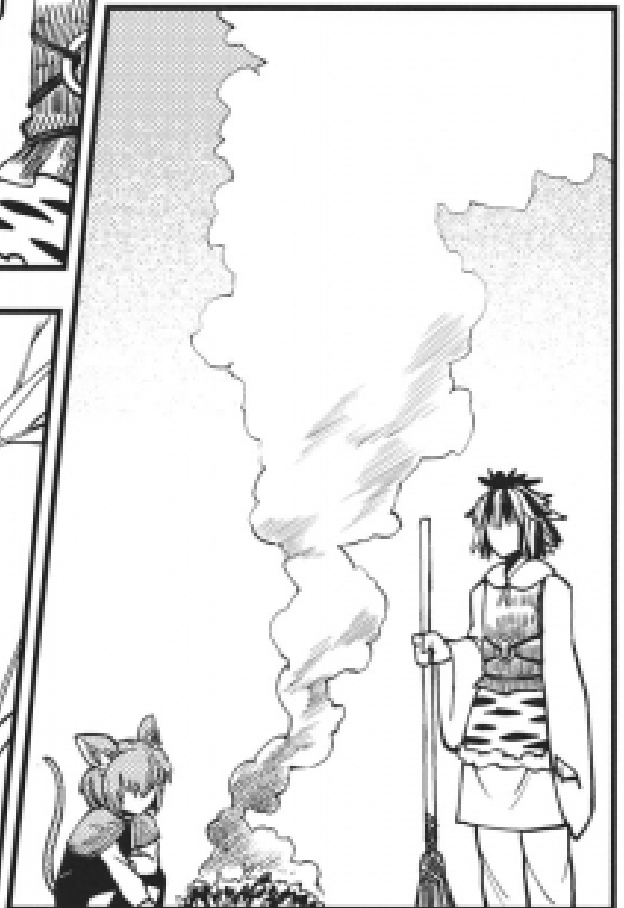
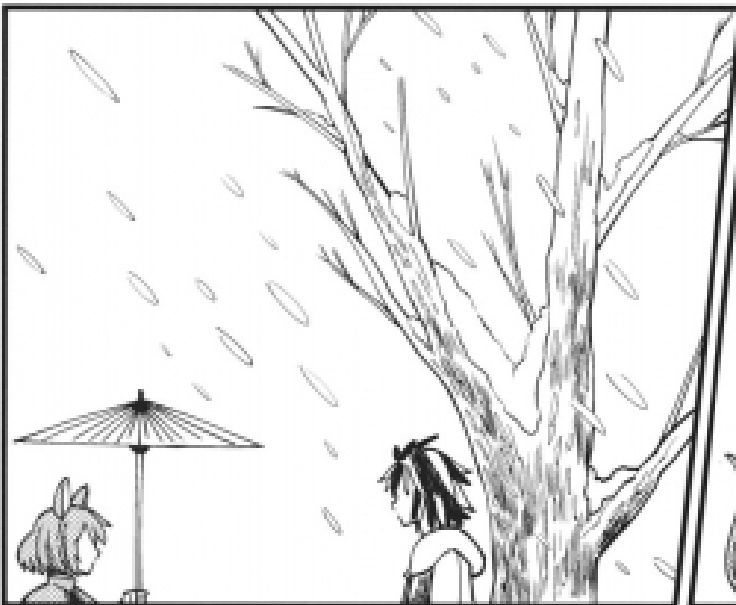
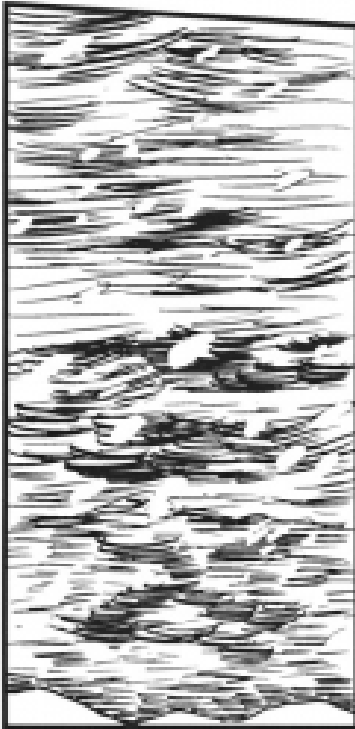
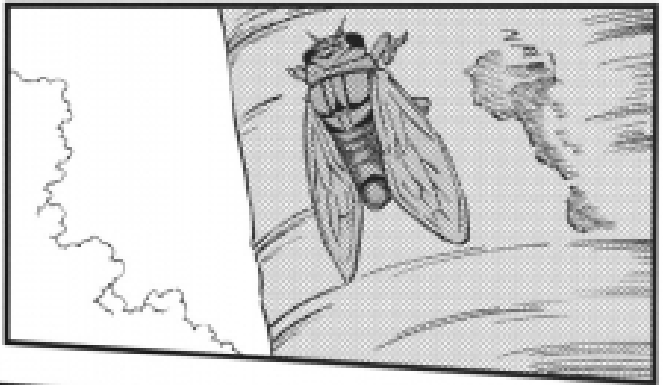
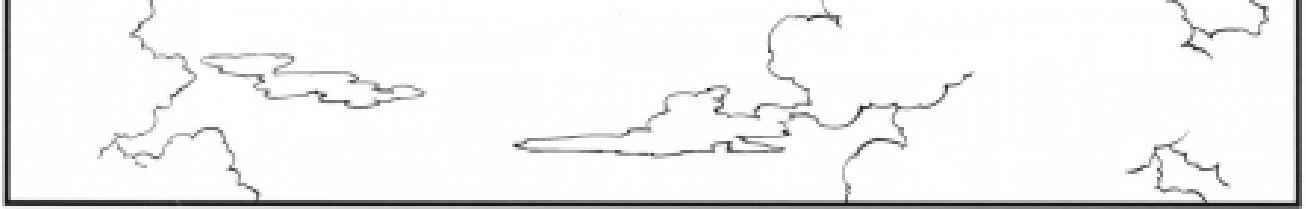
#!!

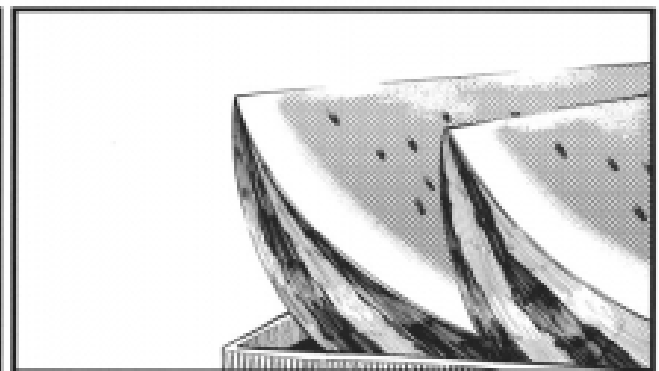
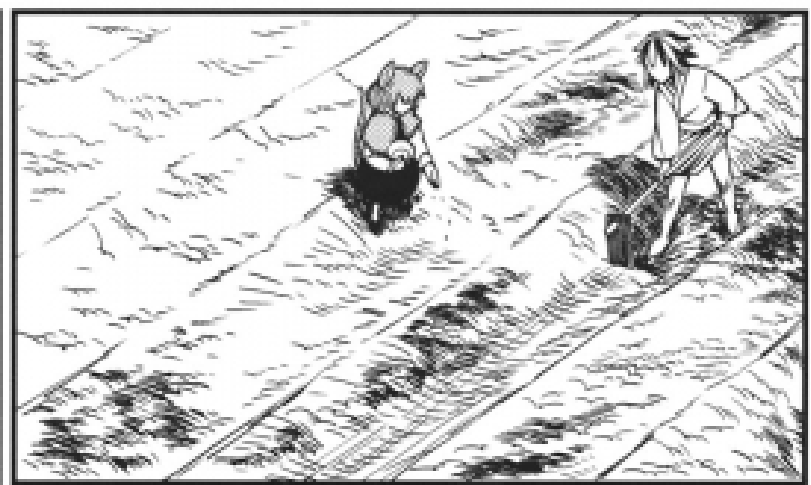
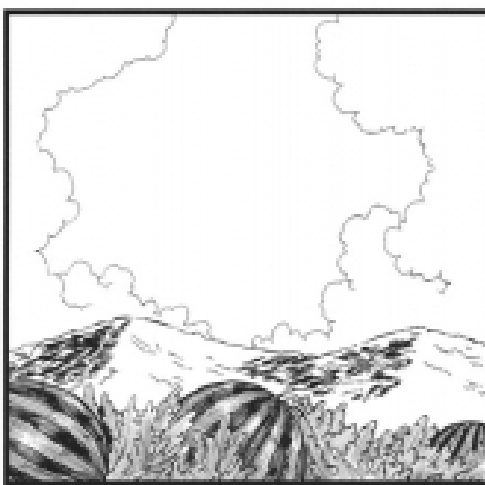
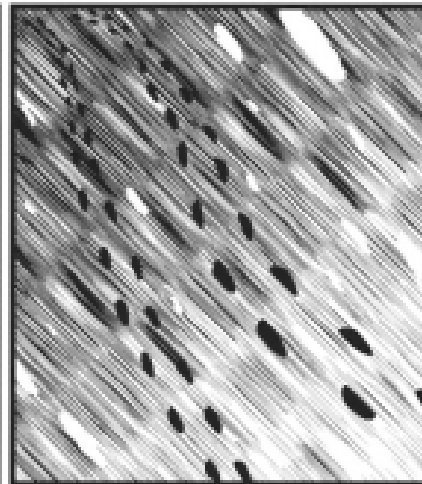
白蓮様……

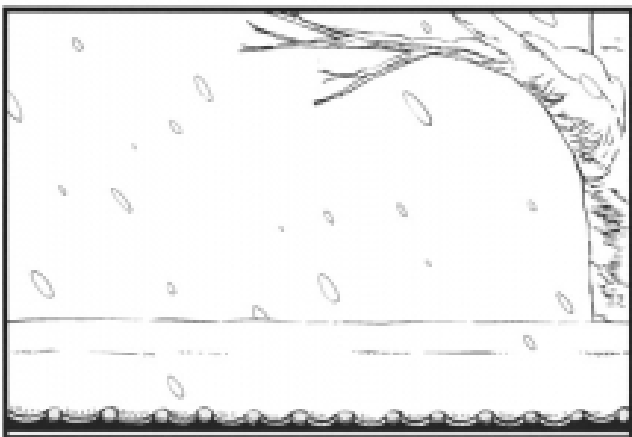
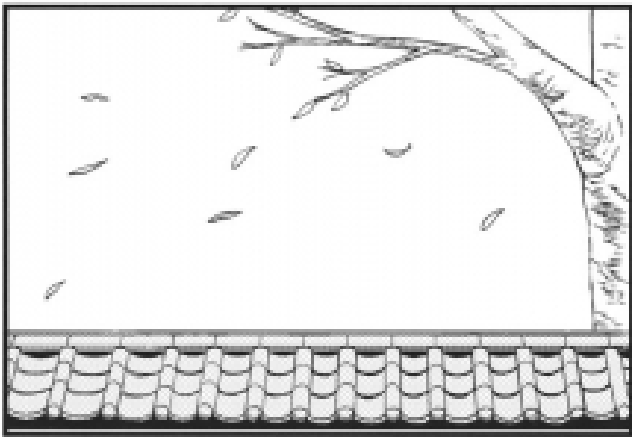
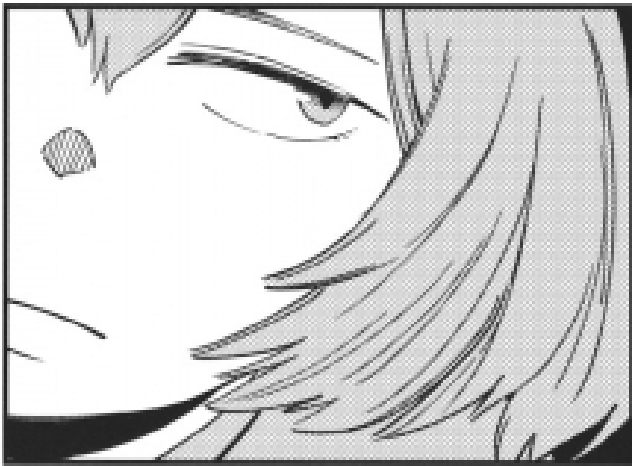


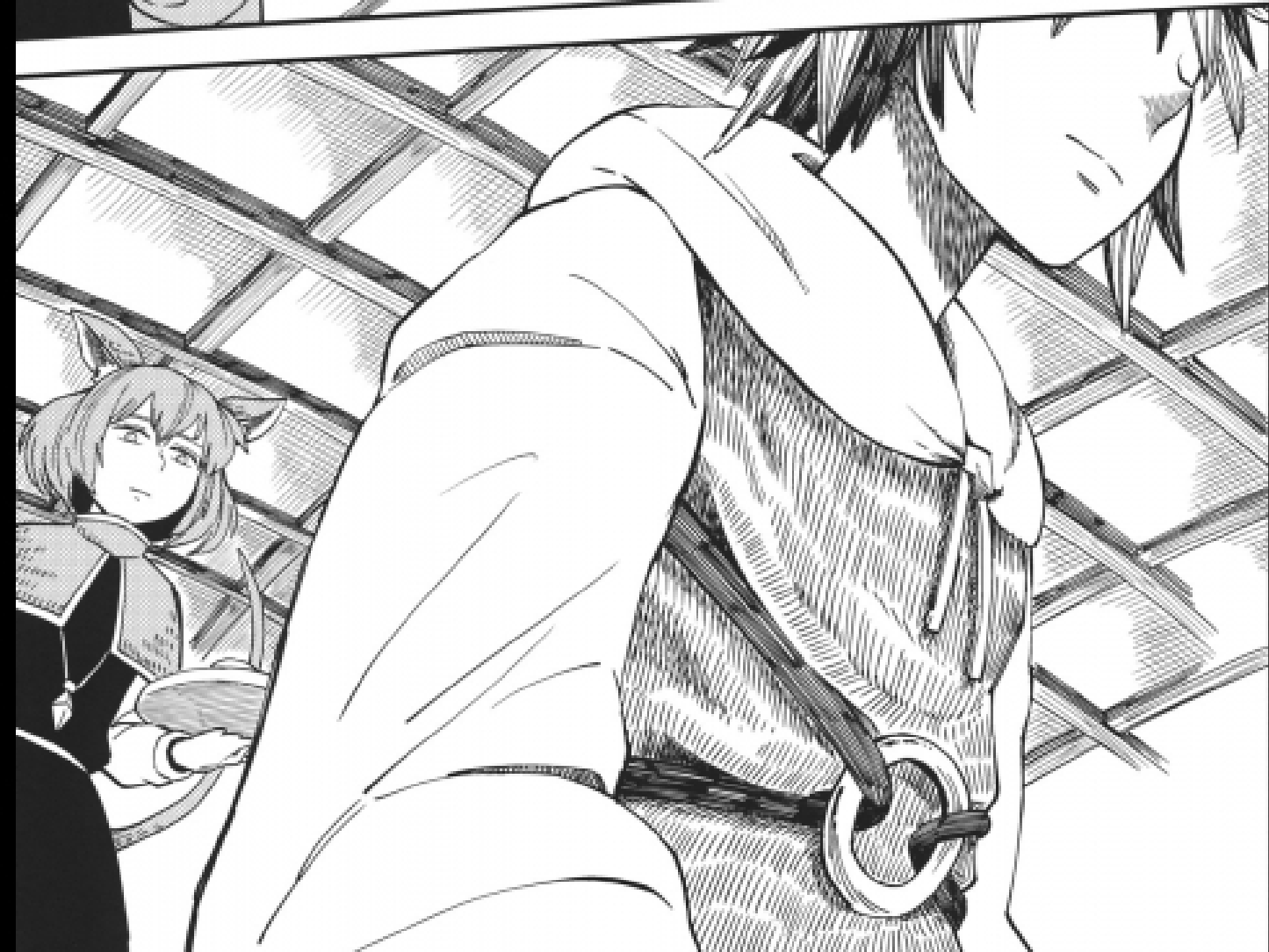
聖……

聖……









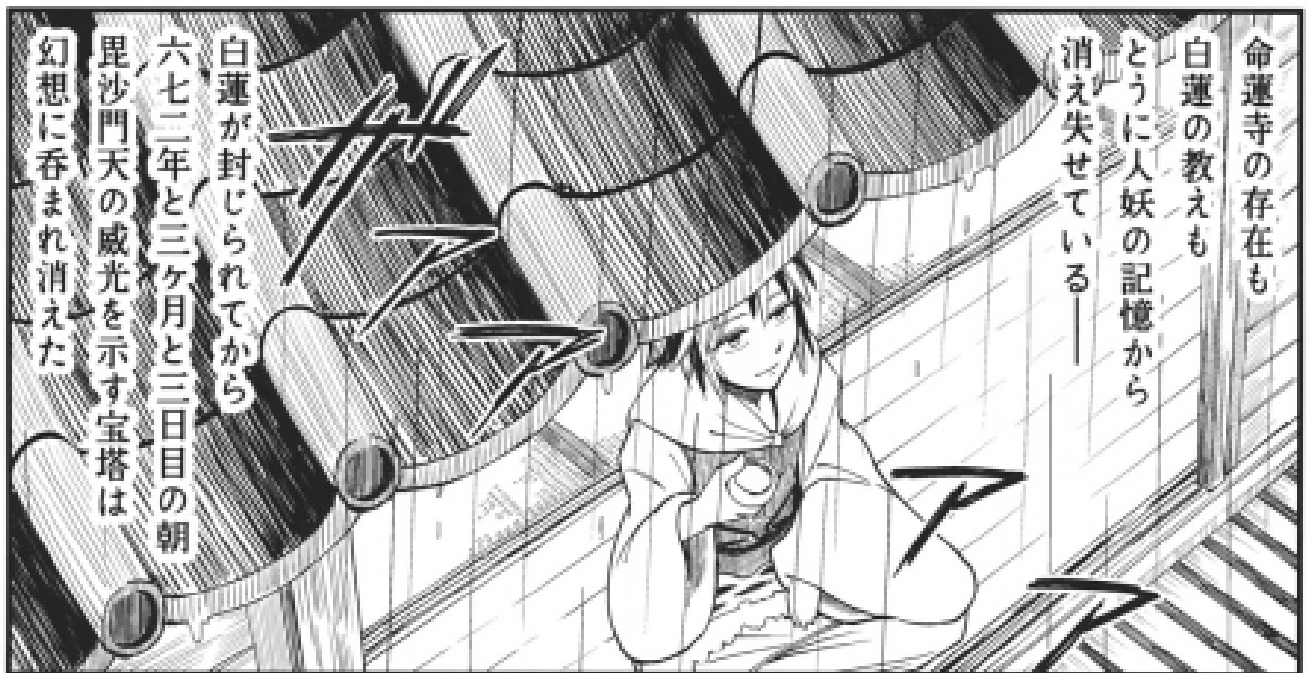
この人は――



いつまで待つのだろうか



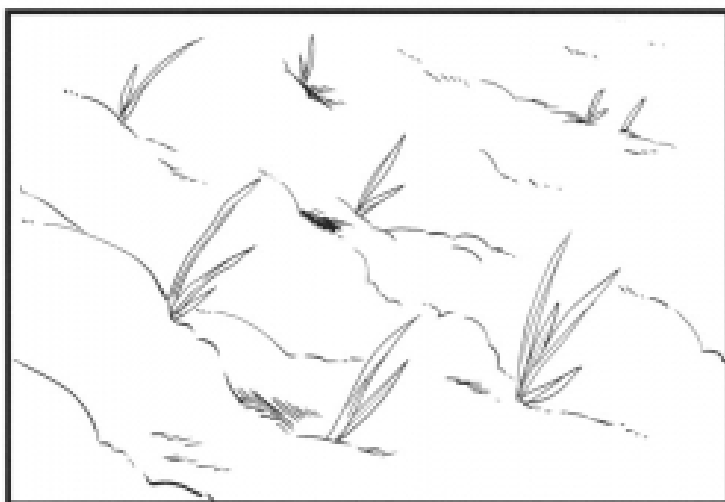
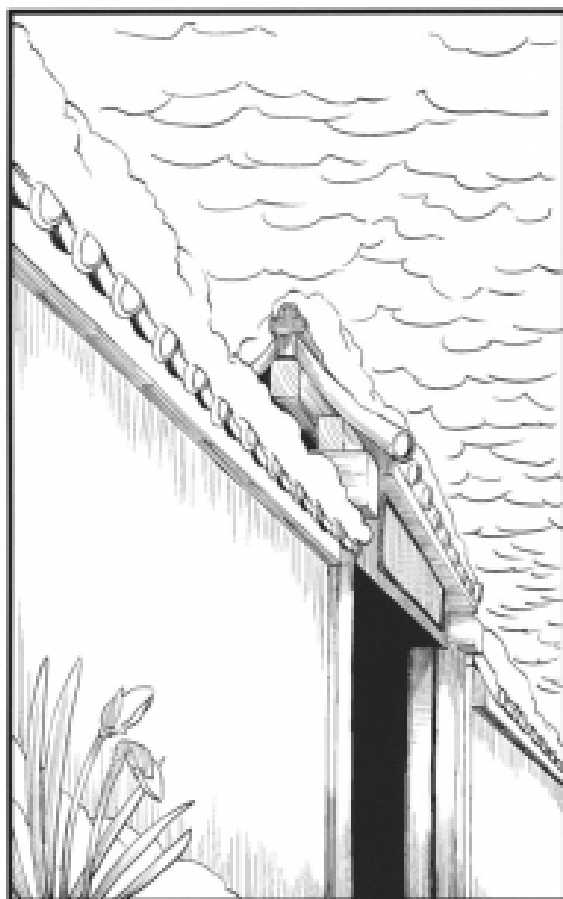
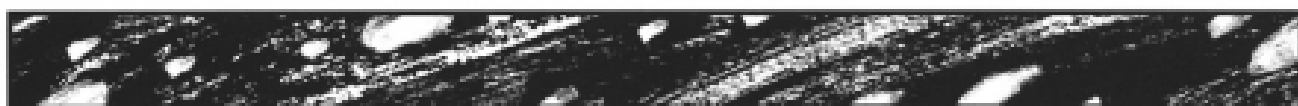
ナズ

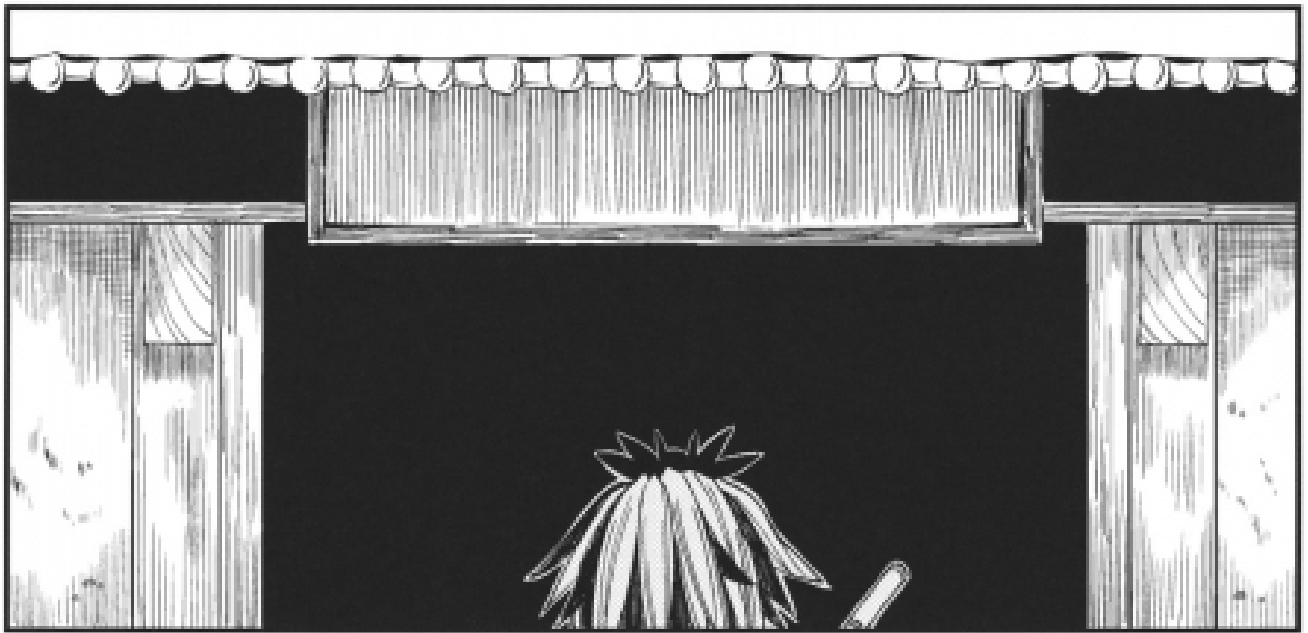
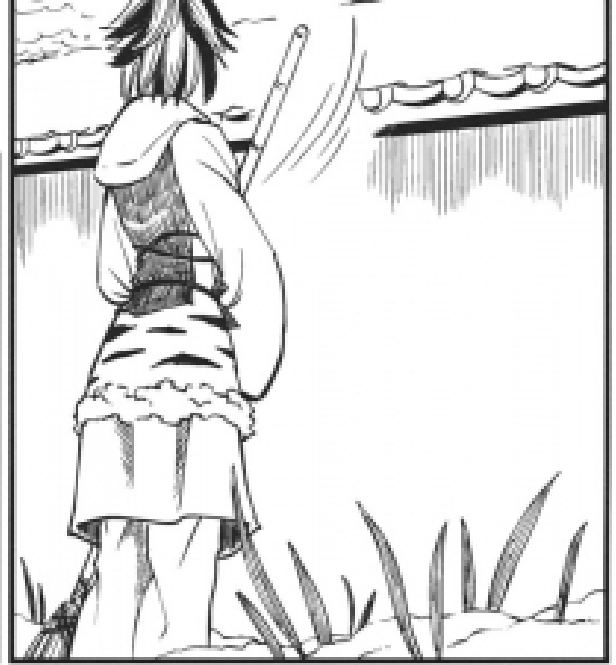
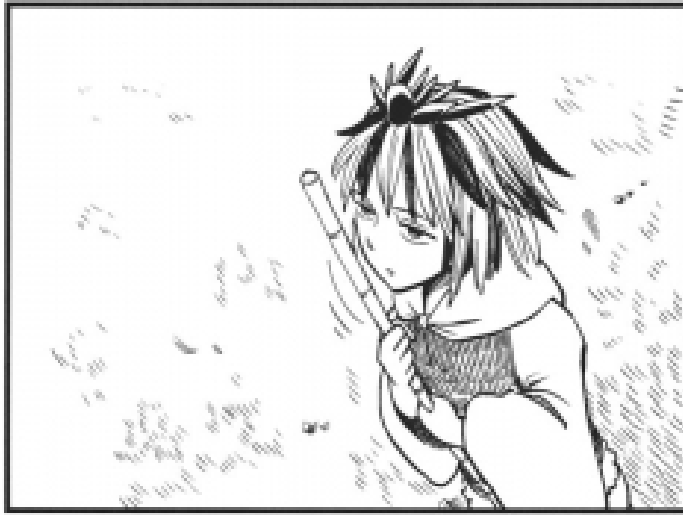


彼女の心を埋めることはできない

千の季節が巡っても

本当に







まだ近くに
いるはずだ

捕らえれば一生
楽ができる……



もう出て来ても
大丈夫よ……

追っ手は
帰ったから




とっ……

……!!!



恐がらないで
こっちにおいで



私が一緒に
いてあげる



もう誰にもあなたを
傷つけさせないから



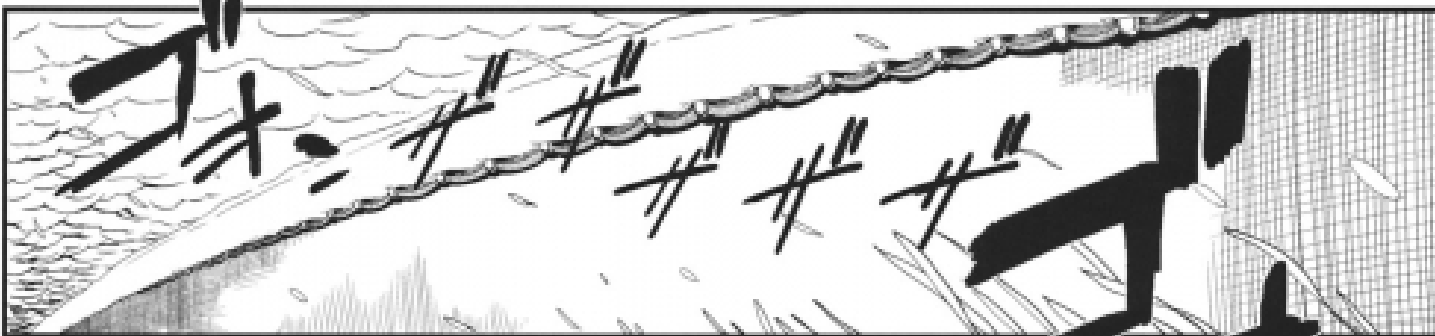
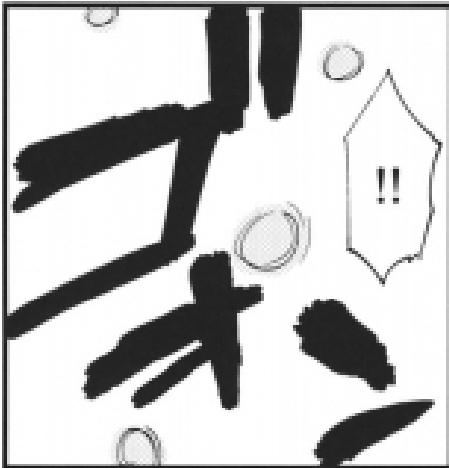
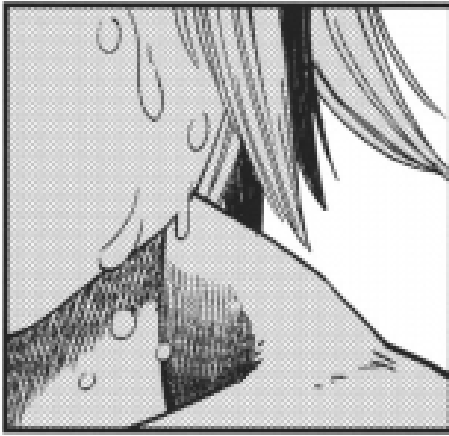
あなたは

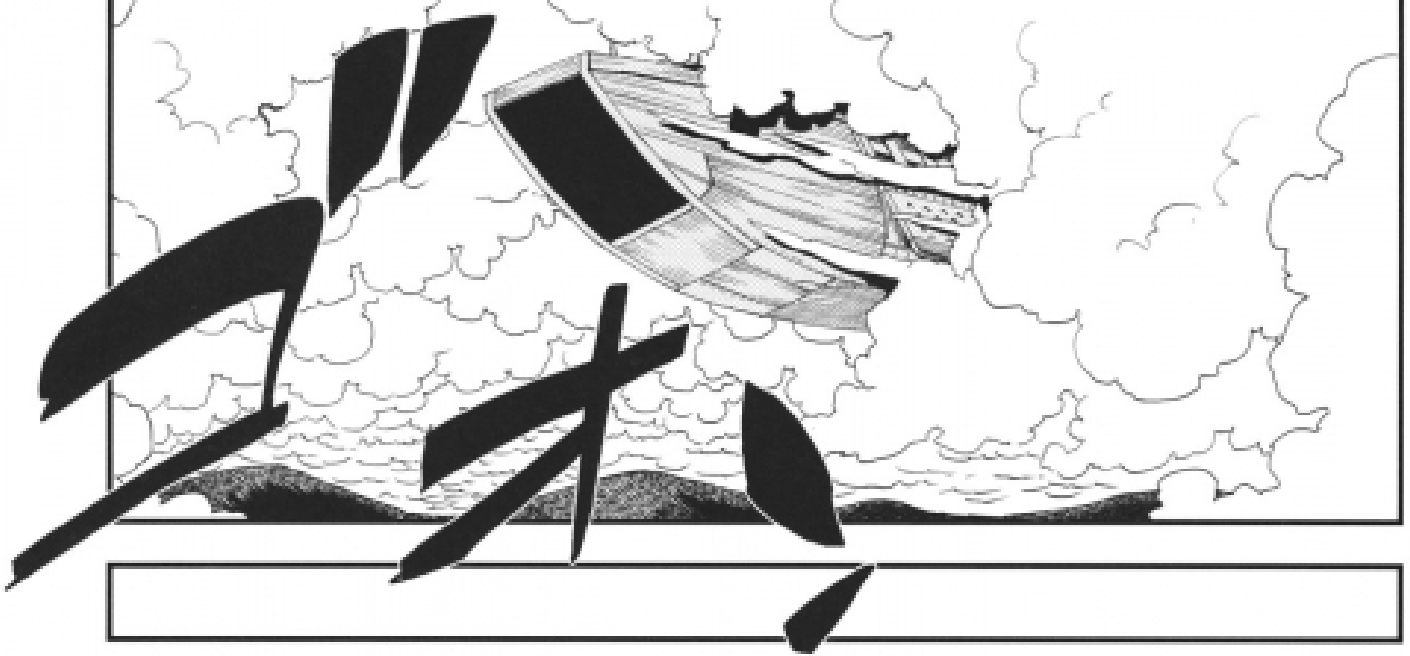


あなたは……

うそをつくな
不妄語戒と

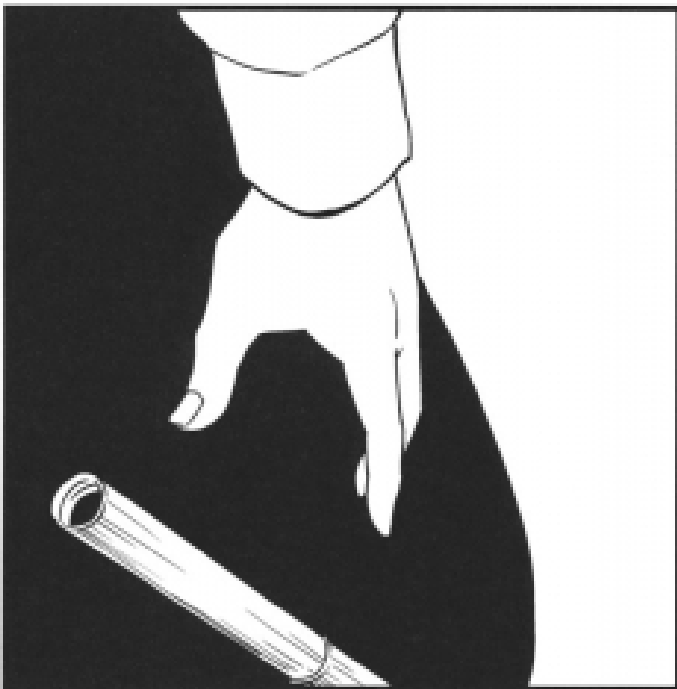
私に教えたのに……！





すぐに

私は理解した



その巡航音は

早春の大气を震わせて
尾の先まで届き――



その時が来たことを――





まるで昨日のように笑った

百年は

来ていたんです



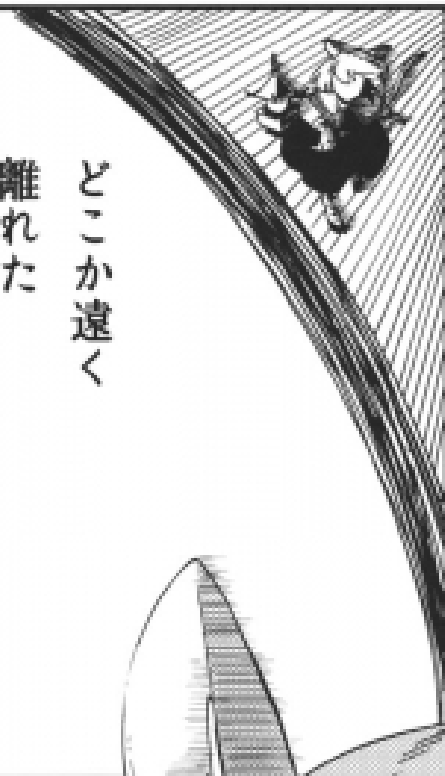


この仕事が済んだら

彼女の元を去ろう

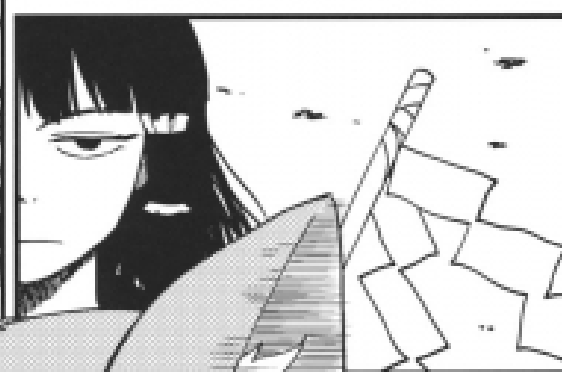


そうして
私はひとり――



どこか遠く
離れた

誰も知らない
薄暗い部屋で



己の惨めを

嘲わらいながら暮らそう



鼠にはお似合いだ



飛宝を持った連中は
すぐに追いついてきます

準備は
よろしいですね

参りましょう

聖白蓮の元へ

2015年5月10日 初版発行
発行:ポンプブラック
著者:いろいろやる人
iro3do@gmail.com / twitter@iro2do
原作:東方project / 上海アリス幻楽団
印刷:株式会社栄光
※本書は東方projectの二次創作作品です。



ponpon-black

ポソポソブラック